

廃水処理の新しいpH低下対策 安心・安全な固形のアルカリ剤

水処理剤シリーズ

固形pH調整剤

pHが低下したばっ気槽に浸漬するだけで、

1. 低下したpHを中和します

2. 長期間、中性を維持します



1. 廃水処理におけるpHの低下

〈廃水処理におけるpHの低下とは？〉

主に硝化細菌によるアンモニアの酸化によって、槽内の水が酸性化すること

〈pH低下による問題点〉

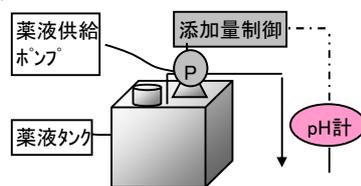
- ①放流水のpH基準値の逸脱
- ②処理性能の低下 ③N-BODの増加

〈pHが低下しやすい施設の傾向〉

- ①流入汚水量が設計計画値よりも少ない
- ②流入汚水中のし尿の割合(窒素濃度)が高い

従来の対策①

pH制御装置による苛性ソーダの供給



〈問題点〉

- ①設備投資が必要
- ②工事に日数を要する

従来の対策

点検時に苛性ソーダ添加



〈問題点〉

- ①効果が持続しない
- ②過剰に添加すると処理性能に悪影響

2. 固形pH調整剤の特長

①ばっ気槽に浸漬するだけでOK

- ・付帯設備、動力が不要です。(ネット等で吊下げるだけ)
- ・pH低下対策の早期解決が可能です。(工事期間が不要)

②1度浸漬したら、最大4ヶ月間性能を維持

- ・浄化槽の点検頻度に合せて、使用することが可能です。

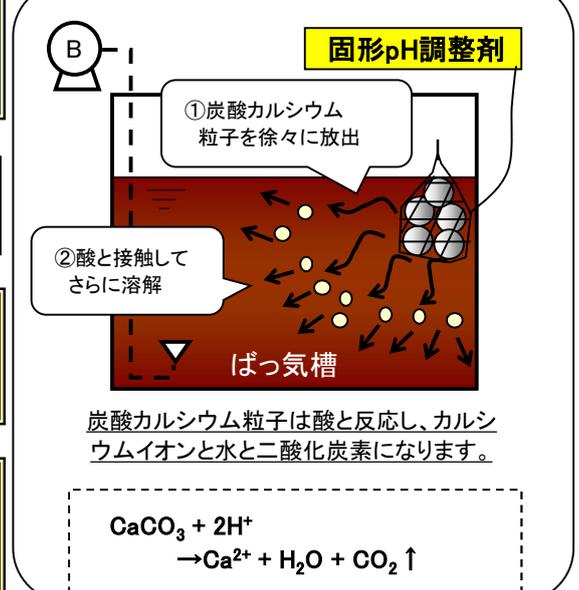
③中性付近を維持する安心設計

- ・過剰に溶解した場合でも、pHが強アルカリにならずに、中性付近を維持するので、処理性能に悪影響を及ぼしません。

④弱アルカリ性の安全な水処理剤

- ・弱アルカリの炭酸カルシウムを使用しており、強アルカリである苛性ソーダと比較して、作業時の安全性が改善されます。

本製品のpH調整の仕組み



3. 製品の仕様



- 形状 : 流線状星型柱状
- 大きさ : 約62mm × 135mm
- 有効成分 : 炭酸カルシウム 76%
- 重量 : 720g/個
- 包装 : 20個入り(合計重量14.4kg)
- 段ボールサイズ : 330mm × 270mm × 175mm

4. 使用方法



固形pH調整剤の添加量の目安
 流入汚水量及び流入水全窒素濃度から、必要量が決まります。

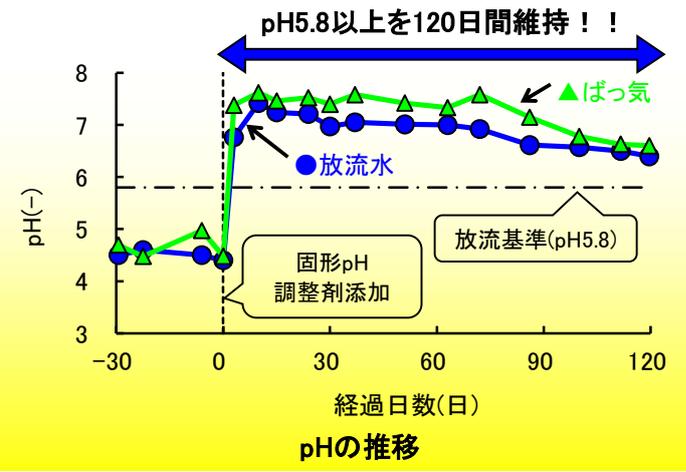
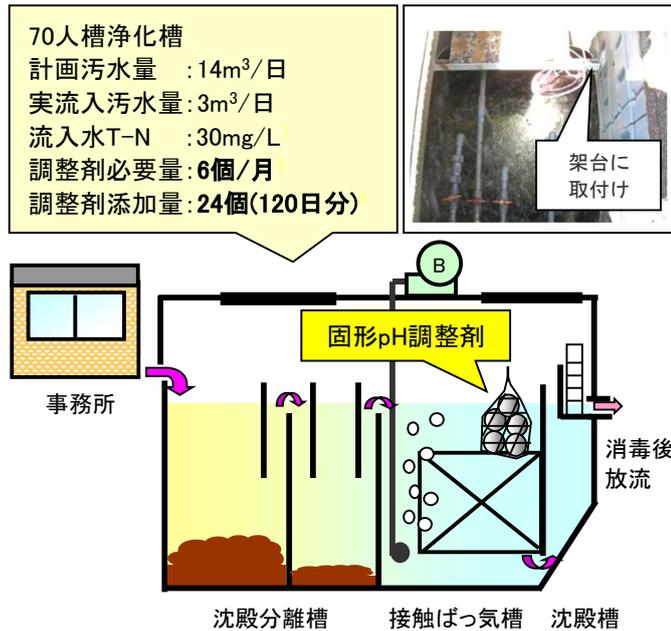
例 流入汚水量1m³/日、流入水全窒素濃度30mg/L、
 点検頻度1回/3ヶ月の浄化槽の場合、
 調整剤の必要量は、**1ヶ月当り2個**
 よって、点検時に**2個 × 3ヶ月 = 6個** 補充する。

ばっ気槽への浸漬方法

中和効果を十分得るために、
 網かご等の容器を用いた浸漬方法を推奨します。

5. 実施例

沈殿分離槽+接触曝気槽タイプの浄化槽のpH低下対策に固形pH調整剤を使用しました。



※放流水のBOD、SSは、添加後も良好な値を維持しました。
 ※添加後は、硝化反応が進行し、N-BODが検出されるリスクが低減しました。

<取扱上の注意>

- ※他の薬品と接触させないでください。
- ※ご使用の際は、ゴム手袋等の保護手袋を着用し、人体との接触は避けてください。
- ※本製品を使用する際は、設備の取扱説明書やメーカーの意向を確認した上でご使用ください。

<保管の注意>

- ※常温(5~35℃)で保管してください。
- ※開封したビニール袋は、必ず再度密閉してから保管してください。
- ※使用期限の目安は、製造後約1年です。

日化メンテナンス株式会社

URL : <http://nikka-mente.co.jp/>

本社 : TEL 03-5839-2526(代表) FAX 03-5833-7064